

しいのき



勇壮な舞

1989年10月1日の
開館記念式典で奉
納される、江古田
獅子舞

旧家は区史の生き証人

名誉館長 三 隅 治 雄

開館以来15年、当館のシンボルである旧山崎家庭園の椎の木は、老いてなお健在ですが、周辺の町並みと人の動きは年々変貌を遂げ、昔を語れる人も少なくなりました。その中で、江古田氷川神社の秋祭りに出る獅子舞は、慶安年間（1648～51）以来の伝統を誇る文化財ですが、これを継承してきたのは、旧江古田東本村の名主深野家と一族の原村名主堀野家、旧家の花崎・高崎家などの代々で、現在でも、25軒持ちまわりで稽古を積み、仕上げを深野家の座敷で行うという真摯な伝承活動を続けています。戦前戦後の急激な人口増加で、旧家の存在が目立たなくなった中野区ですが、しかし、古建築・民具を残す家、また、古民謡や昔話・手わざなどを伝える家など数々あり、旧家はまさに区の歴史の生き証人です。

文化財よもやま話

音を観るほとけさま

私たちの身の回りには、普段は見逃していても、確かに存在するというものが多くあります。生活に潜む身近な神様も、そのひとつではないでしょうか。「生きる」中で生じた苦難や悩みの解消に手を差しのべて下さるよう、人は生活の中で手を合わせてきました。区内の歴史・文化財を眺めても、芽生えた「信仰」の反映は随所に見られます。今回は、さまざまな場面に現れる神仏の中で、「観音様」にまつわるお話を、当館に新しく寄贈された資料をご紹介します。進めていきます。

寺院を訪れ拝観する「観世音菩薩像」に厳かな気持ちになったり、道の傍らに立つ石仏に和やかな気分になったり、いろいろな出会いがあるものですが、区内に目を向けると、「西国坂東秩父百番順礼の供養塔」という籠原観音堂（丸山1）や、農耕や荷物を運ぶ馬を供養した馬頭観世音の碑、観音講など民衆の生活と密接した信仰によるものが見られます。また、庭に居並ぶ観音様に圧巻される百観音明治寺（沼袋2）は、一通り拝むことで各札所をすべてお参りしたことになり、御利益を授かることができると言われています。

慈悲のイメージが思い浮かぶ観音像ですが、絵画でもたびたび題材とされます。寄贈を受けた「龍頭観音図」の軸装は「狩野探幽」筆と伝えられていましたが、狩野派美術に詳しい板橋区立美術館・安村敏信氏によると、探幽直筆ではないものの、江戸期の狩野派作品ということ。狩野



派は輪郭線の強弱濃淡で描く漢画の代表で、探幽の絵は需要が高く「伝」としてよく描かれたそうです。毎日この絵を拝んでいたという寄贈者。見えないはずの音を観るという仏を前に、人々の篤い心を知ることができます。

◀伝 狩野探幽筆
「龍頭観音図」
(土田ハル氏寄贈)

大地に眠る歴史

昔の人は遺跡をどう見たか(9)

大森貝塚の発掘以来、明治時代の人々の関心は石器時代（現在では縄文時代と呼ぶ）の人が、我々日本人の祖先であるのかどうか、という点でした。これにいち早く見解を示したのが、東京帝国大学人類学教室の坪井正五郎博士で、石器時代人は「コロポックル」であると主張しました。

「コロポックル」とは、アイヌの伝説に出てくるフキの葉の下にいる背の低い、知恵と力のある人々です。ある日アイヌの一人がいじわるをしたら、その日から姿を消したと伝えられています。

坪井博士は、縄文土器を創り、竪穴住居に住む人々は我々とは異なる、先住民族のコロポックルと考えたのでした。しかし、同じ東京帝国大学の小金井良精博士は、人骨の比較研究から石器時代人（縄文人）は形質的にアイヌに近いとし、コロポックル説を否定しました。



コロポックルの姿（大野雲外筆）
【斎藤 忠『日本考古学の百年』より】

その後、両博士は明治時代を通じて論争を展開しましたが、どこまでも伝説で幻の「コロポックル」ですので、アイヌ説が次第に優勢になってきました。孤軍奮闘状態の坪井博士は大正2年（1927）、ペテルブルグで客死します。そしてコロポックル説は姿を消したのです。

現在では、これらの説ではなく、石器時代人（縄文人）は我々の直接の祖先であると考えられています。

しかし、明治期の実証的学問の先駆者であり指導者たる坪井博士が、あくまでも伝説の「コロポックル」に執拗にこだわったのはなぜなのか、いまだに「謎」とされています。

平成15年度 青少年対象事業報告 れきみんなへ行こう！

地域に根ざした資料館としての役割のひとつに、小中学生を対象とした活動が挙げられます。郷土学習や体験学習が重視されつつあるなかで、日常での対応はもちろん、学校での「総合的な学習の時間」の授業や、夏休み期間の学習の調べ物、学校見学での説明案内など、子供たちと接しながら課題の手引きをお手伝いする機会があります。さらに、平成14年度より小中学校の完全学校週五日制が実施されるようになり、子供たちの土曜日の過ごし方が懸念されると、この「ゆとりの時間」の活用に対し資料館ではどのような対応ができるか、検討してきました。

そのような流れのなかで、本年度新たに計画・実施した青少年対象の事業を、本特集では取り上げてご紹介いたします。

学校週五日制対応事業

「土曜日はれきみんなへ行こう！」というキャッチコピーのもと、実際の作業や体験を通して、日本や郷土の文化・歴史に親しみをもってもらおうと、土曜日の午後にさまざまな体験講座を設けました。

地域で活動している講師の先生から実演を見せていただきながら、基本の形や正しい道具の使い方を習い、ひとつの形を仕上げていきます。

上半期に行われた講座では、区内在住・在学の小中学生を対象とした募集に、友達、兄弟・親子の参加がありました。これからも、まだまだ企画は続きます。区報やホームページ、区内各施設で掲示配布しているポスター・ちらしを気をつけて見てくださいね。

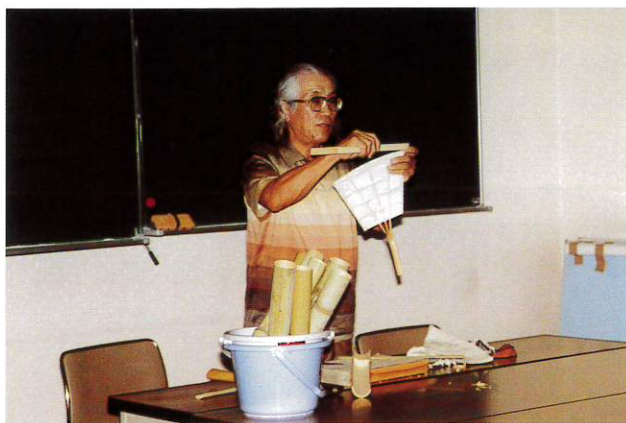


【伝統工芸体験講座 その1】竹と和紙でうちわ作り

伝統の技を体験する『竹と和紙でうちわ作り』は、6月21日(土)午後1時30分から、木彫人形作家の藤本英以^{ひでゆき}氏を講師に招き行いました。17人の児童・生徒とその保護者が参加し、古くから生活に欠かせない素材である、竹と和紙^{うちわ}を使って、昔ながらの団扇を作りました。

昔ながらのとは言っても、細かく竹を割いて、糸で固定した、丸い団扇ではありません。材料は、竹、和紙、糊だけで、形は四角です。シンプルなのですが、かえってそれが味わい深く、作った人の個性が出るユニークな団扇です。

まずは、先生から、小刀の使い方を教わり、基本をしっかり頭に入れて、削り始めました。

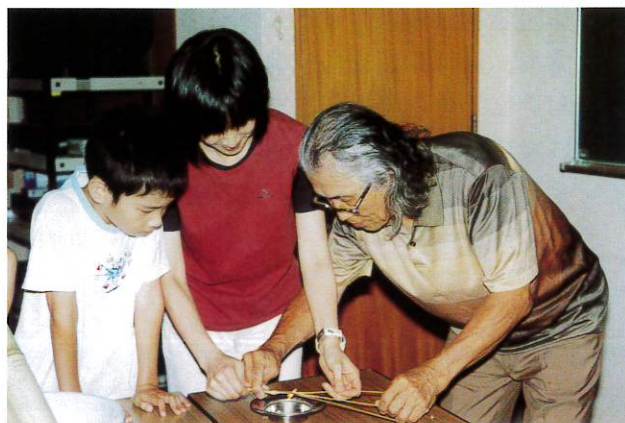


材料は、直径6~7cmの真竹、障子紙よりやや薄手の和紙、糊、使った道具は、小刀、ナタ、ロウソク、マッチ、絵の具です。

まず、竹をナタで、縦に割ります。1本の竹の節より上を骨、節より下を柄にします。骨の部分は、三つ又に割きます。それとは別に4本の横組み用骨と、竹ひご1本を作ります。それぞれ、竹の内側をていねいに削ります。三つ又部分に熱を加え、左右に広げ、形を作ります。それに、4本の骨を互い違いに組み合わせます。竹ひごをやや



湾曲させ、団扇の頭の部分に置いてから、和紙を両側から、糊で張り合わせます。この団扇は、竹の弾力性と、熱を加えると曲がり、冷めると元に戻らないという性質をうまく利用しています。



昨年、大人を対象にした伝統工芸の歴史講座を行いました。講演だけでなく、実演もしていただき、最終日には、藤本先生指導の下、木彫りのペンダントの製作体験をしました。自分で体験する事により、より理解が深まり、より身近に感じることができました。そこで、今度は、子供達にと思い「伝統工芸体験講座」を企画しました。

小刀を持つのも初めてだった子供達が、お父さん、お母さん、先生の協力で、2~3時間後には、立派な自分だけのうちわを作り上げました。仕上げに絵を描くところまでできた子もいました。楽しい中にも真剣に取り組む子供達、子供より一生懸命だったかもしれなかったお父さんお母さん。

実際に自分の手で物を作る喜びを感じただけでなく、昔の人々の知恵や工夫を学び、いろいろな技術を持つ先生の話の聞いたり、技を見せてもらったり、貴重な体験ができたのではないかと思います。



【伝統芸能体験講座】聴こう！習おう！日本の楽器

日本の文化・風土で生まれた楽器は、生活や郷土の音楽風景を支える大切な用具です。かつては、日常生活に溶け込んでいるものですが、今では身近で接することも少なくなっていました。昨今の和楽器ブームや学校での教育など、伝統文化への意識は高まっていますが、実際に和楽器を手にする機会はまだまだ多くはないようです。今回、地域で活動している先生から演奏を習ったり、曲や話を聴いたりしながら、独特の音色と和楽器ならではの味わいを体験しました。

〈7月12日〉 ～横笛を吹く～

日本の音文化を表現する楽器に、笛や太鼓は代表例として挙げられます。中野区内には、無形民俗文化財に指定される「江古田獅子舞」がありますが、この芸能でも笛や太鼓は欠かせません。この回では、江古田で生まれ育ち、郷土芸能を



支える立場として活躍する深野直美さん・貴寛さん親子を講師に招き、横笛を習いました。獅子舞で用いる6穴の笛より音程が取りやすいという7穴を使って、まずは音を出す練習から始め、「ほたる」「かごめかごめ」を吹くことにチャレンジ。数字で表した楽譜を見ながら、耳と指で覚え、難しいけれど楽しみながら吹きました。横笛は初めて、という中で、最後は息もぴったり、みんなで合奏するところまでいきました。



笛を始めるきっかけは獅子舞だった、というお二人。

さらに専門の演奏家を志している貴寛さんから、邦楽世界の味わいについてお話を伺いました。また、「赤とんぼ」「毬と殿様」「山桜（二重奏）」の演奏も聴かせていただきました。

世代を越え受け継がれていく文化の奥深さを知り、笛の世界の楽しさと情緒を堪能した2時間となりました。



〈7月26日〉 ～和太鼓を打つ～

指導してくださったのは、木村輝之会長率いる「^{きこかい}輝鼓会」のみなさんです。江古田1丁目を中心とした小学生から大人までが所属するグループで、地域の盆踊りや「御会式」などの祭りに参加したり、区内外の催しにおいて演奏活動を行っています。平成14年度には、東京都知事から「青少年育成団体功労賞」を受賞するなど、その功績が評価されています。

会場には「桶胴太鼓」や「締め太鼓」など9つの太鼓が並び、それぞれの種類と特徴、材料や違いなどを説明していただいた後、お手本に合わせて和太鼓の基本を習いました。初めてバチを握るとい参加者が多かったのですが、打ち方や姿勢を指導してもらい、リズムに慣れると、気分も乗ってきました。

後半には盆太鼓も習い、全員で「大東京音頭」に合わせ打ち、また、習った基本のリズムを駆使した創作太鼓「鼓筒太鼓」や、笛が加わる「お囃子くずし」という曲の演奏を聴きました。

大音声が心にも体にも響き、爽快な気分となった午後でした。



夏休み郷土学習相談

毎年、夏休み期間（7月20日から8月31日）には、「郷土学習相談」を行っています。知りたい内容を本で見つけて調べたり、昔の生活に関わることを体験してみるものです。展示室や調査研究室・研修室で学んだり行って見て、今年はどうな発見があったのでしょうか。



～～本年度の催し～～

《毎日やっているもの》

学習相談
民具パズル
石臼をひいてみよう
土器にさわったり、模様をためそう

《日にちが決まっているもの》

障子張り 〈8/8・21〉
竹トンボ作り 〈8/1・7・28〉
伝承おもちゃ作り 〈7/24・8/6・14・27〉
(お手玉・竹のおもちゃ)

《前もって申し込むもの》

石包丁作り 〈8/23〉



▲【竹のおもちゃ作り】

小刀の正しい使い方を習い、竹を削り作りしました。その後、完成した「ぶんぶん独楽」や「竹トンボ」で遊びました。



▲【障子張り】

障子は、和室にはめられている扉や窓のことです。破れた障子の紙をはがし、洗ってきれいにした棧（さん）に、和紙をていねいに張り直しました。

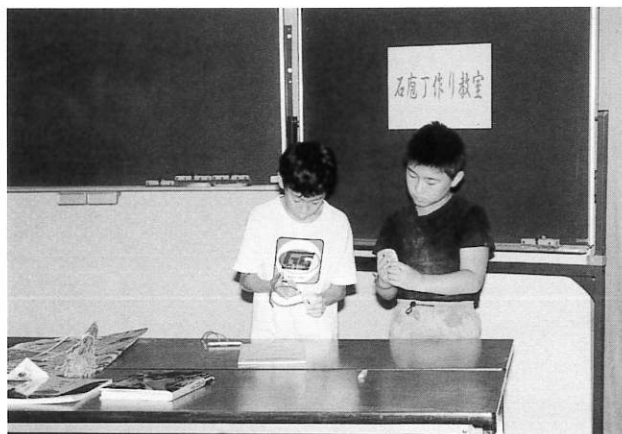
▼【石臼ひき】

米や麦・そばを粉にする道具です。粉に水を混ぜこねると、団子や麺ができます。臼は重いけれど、粒の感覚や匂いをかみしめながら挽きました。



▼【石包丁作り】

石包丁は、弥生時代に使われた穂を摘む道具です。滑石（かっせき）を紙ヤスリで削りながら形を整えた後、磨いて穴に紐を通したら、できあがり。



古文書つづり

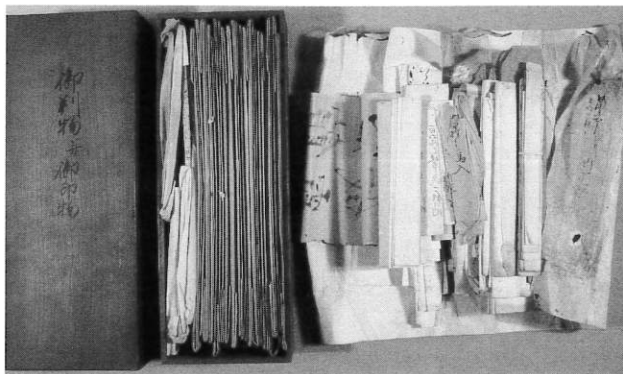
ひさびさのお宝ゲットで 上機嫌

申すまでもありませんが本コーナー担当は一応古文書を主管しています。当然、個人的な偏愛の対象は古文書になるのですが、このところ目新しい話題がなく少々寂しい思いをしていました。そんななか久しぶりに古文書の寄贈があり、現在嬉しい悲鳴を上げている最中です。

なぜ「嬉しい悲鳴」なのでしょう。実は、古文書分野に限らず資料の寄贈は受入れてからが担当者の仕事の本番だからです。例えば古文書受贈の場合は①寄贈申込み②調査③受入可否の決定④現状調査⑤封筒詰めと通し番号⑥内容調査⑦分類と分類番号⑧目録作成という段取を経て公開にこぎつけます。このうち④からが受入後の作業で、現状調査とは受入れた時点での状況を記録すること。その後一点ずつ封筒に入れて連番をふり点数を確認してからくずし字を讀解して内容・作成者・宛先・年月日などを特定、主題や機能により分類して分類番号をつけ各種目録をつくってから

やっと公開できるのです。ただ今回は私の担当する他の事業と時期的に重なってしまい、現在のところ完了したのが⑤まで。最大の楽しみであり難所でもある⑥・⑦にはとりかかれてもいません。また武家文書なので字そのものはきれいなのですが、金沢藩前田家に仕えた家の文書なので見知らぬ名前ばかりのため人物同定に苦労しそうです。

とはいえ久々のお宝受贈。頑張って作業を進め一日も早く公開したいと思います。乞、ご期待！



▲新収蔵“お宝”の箱上蓋・中身・包み。蓋には「御判物 并 御印物」とある。判物の方が格上。

判物：判(=花押。直筆サイン)のある文書
印物：印(印鑑)の捺してある文書

中野往來

太田道灌と中野

江戸城を築城したことで知られる太田道灌と関わりのある区内の史跡を紹介します。

江古田公園 (松が丘2-35) には、江古田原沼袋古戦場碑があります。文明九年(1477)四月十三日から翌日にかけて、太田道灌と豊嶋泰経らがこの地で激戦を交わしました。この合戦は、江古田原沼袋合戦とよばれ、哲学堂公園から野方六丁目の新青梅街道沿い一帯が、戦場となりました。

お経塚 (江古田2-14-7) は、江戸時代初めの古文書に「古塚」と記されている塚で、近くにある東福寺が火災にあった際、経文などを埋めた塚とも、江古田原沼袋合戦の戦死者を埋葬した豊嶋塚であるともいわれています。

江古田の氷川神社 (江古田3-13-6) は、寛正元年(1460)の創建といわれ、当時、牛頭天王とっていたこの神社に、太田道灌が戦勝を祈願したと伝えられています。

沼袋の氷川神社 (沼袋1-31-4) は、江古田原

沼袋合戦の際、社殿の前に杉の苗木を植え、勝利を祈願したといわれています。この杉は道灌杉と呼ばれ、幹の回りには、しめ縄が巡らされ、高さ30mに達する巨樹でしたが、昭和十九年(1944)頃、枯れてしまい、現在は、根だけが残されています。

松が丘の北野神社 (松が丘2-27-1) は、江古田原沼袋合戦の勝利を祈願したといわれています。

上高田の氷川神社 (上高田4-42-5) には、江戸城を構築するにあたり、何度も詣で、松1株を植栽したと伝えられています。

谷戸運動公園北側 (中野1丁目) に太田道灌の砦といわれる土塁跡がわずかに残っています。

東中野の氷川神社 (東中野1-11-1) は、江古田原沼袋合戦の際、戦勝を祈願し、凱旋後、社殿を造営したと伝えられています。

本郷の氷川神社 (本町4-10-3) は、江古田原沼袋合戦の際、戦勝を祈願し、凱旋後、社殿を修復し、杉1株を植栽したと伝えられています。この杉は、大正三年の落雷で、枯れてしまいました。

弥生町の氷川神社 (弥生町4-27-30) は、文明元年(1469)に太田道灌が武蔵大宮の氷川社より勧請したと伝えられています。

事業報告

各種事業経過

2003年4月～9月

| 事業名 | 内 容 | 期 間 |
|-----------------------------|--|-----------|
| 企 画 展 | 「旧名家・茶室の調度品」－旧名家・茶室内の襖絵を中心に公開－ | 4/29～6/22 |
| | 「－ココロサイコロ－あそぼうスゴロク」－江戸～戦時中のスゴロクを展示－ | 7/19～8/31 |
| | 「春季所蔵名品展－堀江家の名画」－中野村名主堀江家の絵画を展示－ | 4/6～6/29 |
| | 「夏季所蔵名品展－染付の美」－染付磁器「古伊万里」を展示－ | 7/6～9/30 |
| 文化財公開 | 山崎家茶室・書院公開 | 5/1～31 |
| 歴 史 講 座 | 史跡めぐり①「桃園川周辺地域」講師：中田昌之氏（東中野氷川神社宮司）・館員 | 4/19 |
| | 史跡めぐり②「鷺宮地域」講師：星野英紀氏（福蔵院住職）・鷺宮囃子保存会・館員 | 6/28 |
| | 史跡めぐり③「江古田周辺地域」講師：岡崎学氏（NHK学園講師） | 9/23 |
| 学校週五日制 対応体験講座 | 「竹と和紙でうちわ作り」講師：藤本英以氏（中野区伝統工芸保存会会員） | 6/21 |
| | 「聴こう習おう日本の楽器①笛」講師：深野直美氏・深野貴寛氏 | 7/12 |
| | 「聴こう習おう日本の楽器②太鼓」講師：輝鼓会（江古田太鼓同好会） | 7/26 |
| 古 文 書 講 座 | 講師：大友一雄（国文学研究資料館史料館教授） | 9/6・13・20 |
| | 講師：笠原 綾（日本放送協会学園専任講師） | 9/27・10/4 |
| 文化財調査 | 江古田・沼袋地区民俗調査報告書刊行作業 | 継続中 |
| 埋 蔵 文 化 財 | 江古田一丁目34番民有地立会調査 | 4/9 |
| | 本町三丁目15番民有地試掘調査 | 4/10 |
| | 弥生町三丁目35番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業） | 5/15 |
| | 弥生町四丁目15番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業） | 5/21 |
| | 江古田三丁目14番自警会用地確認調査 | 6/3～5 |
| | 南台五丁目33番民有地試掘調査 | 6/7 |
| | 南台五丁目33番民有地試掘調査 | 6/7 |
| | 若宮一丁目4番民有地立会調査 | 8/7 |
| | 弥生町三丁目18番民有地立会調査 | 8/8 |
| | 江原町二丁目22番民有地試掘調査 | 8/19 |
| 江古田一丁目36番民有地試掘調査（国庫補助金対象事業） | 8/21 | |
| そ の 他 | 小学校3・4・6学年総合学習見学：17校 | 4月～9月 |
| | 博物館実習（6大学7名） | 7/29～8/10 |
| | 夏休み郷土学習相談（体験学習「拓白・竹トンボづくり・お手玉づくり・障子張り」・学習相談） | 7/19～8/31 |

寄贈資料一覧

2003.3月～4月
敬称略 受入順

| 資料名 | 点数 | 氏名 |
|-----------|----|-------|
| 秋田御殿まり | 1 | 後藤ハツ子 |
| 雛人形(S4) | 一式 | 坂 泰子 |
| 五月人形(S42) | 一式 | 安村 鐵雄 |

| | | |
|------------|----|-------|
| 愛国婦人会たすき | 一式 | 斎藤 勝利 |
| 日本人形 | 11 | 仙波三津江 |
| 唐箕・靴製作道具など | 一式 | 東 明美 |

◎貴重な資料をありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

発行年月日2003年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX03(3319)9119

(印刷物登録番号 15中教生第2号)

入館状況

2003年3月～2003年8月(延153日間)(人)

| 一般 | 団体 | 学校教育 | 合計 |
|--------|-----|------|--------|
| 1,5100 | 183 | 830 | 16,113 |

 R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています